日本農業新聞　令和４年４月26日掲載

農業技術プリズム

温州ミカン「長崎果研原口１号」

着色早く食味も良好 施設栽培の収益向上

早生温州ミカン「長崎果研原口1号」は「原口早生」の枝変わり個体から育成（2018年2月に品種登録）した長崎県オリジナル品種です。露地栽培において、「原口早生」と比べて成熟期は15日程度早く、10月中旬に成熟し、「原口早生」の果実形質を引き継いだ良食味の早生品種です。

ここでは、加温施設栽培における特性および有利性についてご紹介します。

①加温施設栽培における「長崎果研原口1号」は、16～18年の3カ年平均で、糖度が13・2となり、「原口早生」より約1・0高く、酸含量は約0・20グラム／100ミリリットル低くなります。また、「長崎果研原口1号」は、「原口早生」に比べ着色が早く、一旬早い収穫および出荷が可能です。

②長崎県における16～18年の施設ミカン販売額実績を基に出荷を一旬早めた場合の販売額を5月下旬から6月下旬までの期間で試算すると、10アール当たりの販売増加額は25万6000円となり、5・6％増加します。

このことから、施設ミカンの新植、または改植の更新先として「長崎果研原口1号」を導入することで、収益向上が期待されます。

（長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門カンキツ研究室　研究員　前田良輔）

加温施設栽培における「長崎果研原口１号」の果実品質

調査年	品種名	果実重（g）	糖度（Brix）	酸含量（g/100ml）	着色歩合
2016	長崎果研原口１号	92.9	12.5	0.79	9.7
	原口早生	92.1	11.8	0.88	7.9
2017	長崎果研原口１号	85.4	13.6	0.98	8.8
	原口早生	74.5	13.4	1.21	6.9
2018	長崎果研原口１号	87.4	13.6	0.80	9.4
	原口早生	79.4	12.1	1.16	6.3

※収穫日は2016年5月24日、2017年6月8日、2018年6月5日